

## 渡邊欣雄氏講演会

(北海道民族学会・帯広大谷短期大学 共催)

岡庭 義行

開催日：2005年10月15日

開催場所：北海道大学 人文社会科学総合教育研究棟 W516 教室

演題：「調査対象国・地域で受賞して—沖縄と中国—」

講師：渡邊欣雄（首都大学東京 都市教養学部 教授）

調査者と調査地との関係を正視することは、これまで人類学の潜在的な課題であった。長期的かつ継続的な現地調査を行う人類学において、果たして調査地にどの程度受け入れられているのか、また調査地からどのような評価を受けているのか、という問いかけには未だ明確な答えを見いだせず、われわれはフィールドの中で悩み続けてきたように思える。

平成17年10月15日（土）午後6時より、北海道大学において、帯広大谷短期大学と本会との共催で、渡邊欣雄教授による標記講演会が行われた。渡邊教授のご専門は社会人類学で、沖縄民俗学や文化地理学の分野でも多大な業績を蓄積されてきた研究者である。北海道における渡邊教授の講演会は過去にも2回開催されており、本会としても1992年度第3回研究会（1992年10月1日、札幌第一ホテル）において「東アジアの風水思想—研究状況と課題—」というテーマでお話しいただいている。また1995年10月17日には、北海道大学文学部第155回中国語学・中国文学談話会「東アジアの墓地風水」が開催されている。いずれも東アジアの風水思想を主題としたものであったが、今回の話題と共通しているものは、精緻なフィールドワークから溢れ出る渡邊教授の人類学的経験知の世界であった。なお当日は、桑山敬己・北海道大学文学部教授の司会により優れた論点整理が行われ、参加者からの熱心な質問が相次ぎ、予定の時間を超過するほど活発な議論が行われた。



渡邊欣雄教授

この講演は、渡邊教授がこれまで調査を実施してきた沖縄と中国において、その研究業績（著作）が評価（受賞）されたことを踏まえて、これからの人類学調査のあり方について課題を投げかけたものであった。近年の人類学研究における現地調査の功罪を問い直す議論のなかで、この問いかけは多くの示唆を含意していた。渡邊教授の研究は、わが国の人類学研究においてもきわめて先進的・先導的であり、かつ研究史に大きな業績を刻み込むものでもあったことは言うまでもない。今回の講演で示唆されたものは、このような研究上、類いまれで秀逸な研究業績が、調査地の人々にも大きな意味を持ち、支持され、そして高い評価を受けるものであるというある種の研究の接続性・両義性の問題で

あった。

これまで、渡邊教授は沖縄県東村におけるフィールドワークからさまざまな研究上のフレームワークを生み出してきた。1990年代に提唱された民俗知識論はその代表的なものであったが、例えば、その中で語られたエミックとエティックの枠組みは、今回提唱された接続性の議論のなかで、発展的に統合される可能性を示している。すなわち、このことは二項対立の関係から異質原理の併存に至る幽径であり、研究者と調査地の接続性の問題が、新たな文化の統合理論を生み出す淵源に発展する潜在性を保持しているということである。

自己に対する反省的視線を失うことは、現地調査を行う人類学者にとっては致命的であることは言うまでもないが、決して人類学上の学問的評価と調査地からの評価が両立しないわけではなく、むしろ統合可能であることを、渡邊教授が示した浩瀚な事例研究から推認することができるのである。提示された数々の視点は、明らかに人類学調査の新たな定式であり、フィールドを志す北海道の次世代の人類学者に対して、その学問的可能性を拓ける道標となりうるものであっただろう。

(おかにわ・よしゆき／帯広大谷短期大学)

### あべ弘士氏講演会

(2005年度第2回日本文化人類学会北海道地区懇談会、北海道民族学会 共催)

津 曲 敏 郎

開催日：2006年3月28日

開催場所：旭川こども富貴堂

演題：「北方の人と動物」

講師：あべ弘士（絵本作家）

講師のあべ弘士氏は旭川在住の著名な絵本作家である。今、話題の旭山動物園で25年間に渡り、飼育係として勤めた経験をいかし、動物をテーマにした作品で知られている。今回の講演会では、動物園のウラ側をユーモラスな語り口で紹介しながら、特に動物のコミュニケーションの実例をわかりやすく話し、また動物の「コトバ」をまじえた絵本の読み聞かせも行った。後半には一昨年、昨年と続けて訪れたロシア沿海州ビキン川流域の人と動物について、写真を提示しながら解説した。当日は小学生から一般市民、研究者まで幅広い層の聴衆30名ほどが、旭川市中心部の児童書専門店「こども富貴堂」2階の広間で、和気あいあいとした雰囲気の中、おおいに氏の話を楽しんだ。

動物のコミュニケーション活動の手段としては、まず鳴き声あげられる。動物園のオオカミがある種の人間の声、特に園内アナウンスや神主の祝詞に反応して遠吠えをしたという例が示された。しかし鳴き声を発することは、敵にも存在を知らせることになるため、多くの動物では嗅覚がより重要なはたらきをするという。臭いで敵や仲間の存在を察知したり、自分の縄張りを宣言したりするばかりでなく、ときにはスカンクのように敵を威嚇し、遠ざけるために